

**会社概要**

(2010年9月30日現在)

社名 国際石油開発帝石株式会社  
(英文 INPEX CORPORATION)  
設立 2006年4月3日<sup>注1</sup>  
注1: 当社は、国際石油開発株式会社(1966年設立)と帝国石油株式会社(1941年設立)が経営統合し、2006年4月3日に設立されました。  
住所 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー31階~34階  
資本金 2,908億983万5,000円  
従業員数 (連結)1,866名  
事業内容 石油・天然ガス、その他の鉱物資源の調査、探鉱、開発、生産、販売および同事業に付帯関連する事業、それらを行う企業に対する投融資  
事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
配当金受領株主確定日 期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日  
上場金融商品取引所 東京証券取引所(市場第1部)  
売買単位 1株

**当社をもっとお知りになりたい方へ**

INPEX

<http://www.inpex.co.jp/>



「株主・投資家の皆さまへ」ページへ



IRメールニュースにご登録いただけます  
最新のニュースリリース、ホームページの更新情報を電子メールでお届けします。  
こちらのフォームから簡単にご登録いただけます。

**株式の状況**

(2010年9月30日現在)

発行可能株式総数 普通株式.....9,000,000株  
甲種類株式.....1株  
株主数・発行済株式の総数 普通株式.....72,331名  
.....3,655,809株  
甲種類株式<sup>注2</sup>...1名(経済産業大臣)  
.....1株

注2: 当社定款においては、経営上の一定の重要事項の決定について株主総会または取締役会の決議に加え、甲種類株主総会の決議が必要である旨が定められております。

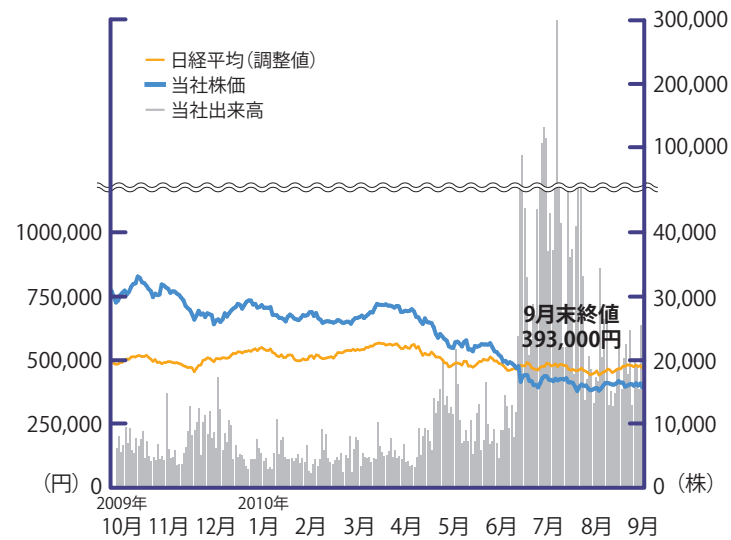
**大株主の状況**

(2010年9月30日現在)

	保有株数(株)	持株比率
① 経済産業大臣	692,307	18.9%
② 石油資源開発株式会社	267,233	7.3%
③ 三井石油開発株式会社	176,760	4.8%
④ 三菱商事株式会社	134,500	3.7%
⑤ JXホールディングス株式会社	134,432	3.7%
⑥ 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	98,339	2.7%
⑦ 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	92,058	2.5%

**株価と出来高の推移**

(2009年10月から2010年9月)



**見通しに関する注意事項**

当冊子に含まれる将来の業績などの記述は、現時点における情報に基づき判断されたものです。こうした記述は経営環境の変化等により変動する可能性があり、当社としてその確実性を保証するものではありません。

**国際石油開発帝石株式会社**  
**INPEX CORPORATION**

お問い合わせ先

IRグループ TEL 03-5572-0234



(2010年12月発行)

**個人投資家の皆さまへ**

**国際石油開発帝石株式会社**  
**INPEX CORPORATION**

特長  
その1

# 私たちの仕事は、 原油・天然ガスを探すことから はじまります。

当社の事業は、地下に存在する原油や天然ガスを見つけ、掘り出し、それを販売すること、一般にエネルギーの上流部門と呼ばれる事業です。上流部門は、さらに鉱区の取得、探鉱、評価、開発、生産・販売に分けることができます。



エネルギーの上流部門が私たちの主たる事業です。

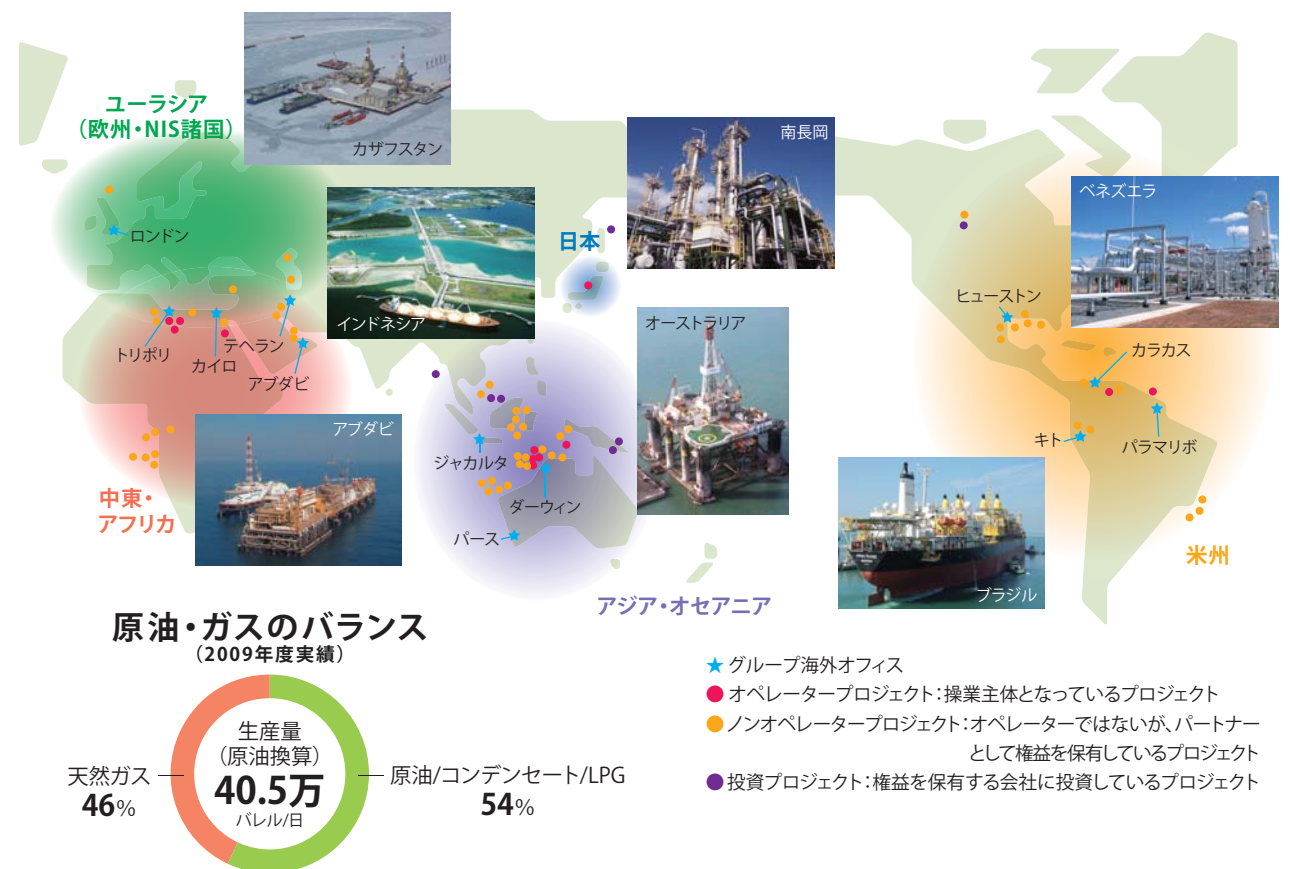
用語解説

**鉱区**：原油・天然ガスなどの鉱物の探鉱や採掘を行う権利（鉱業権）を行使できる一定の土地の区域を指し、日本では鉱業法に基づいて面積等が定められています。米国やカナダでは鉱業権は土地所有権に付属しており、土地そのものがリースされます。インドネシアなどのように政府や国営石油会社と外国石油会社との間の契約で規定される場合は、契約ごとに対象区域が設定されます。  
**地震探査**：人工的に起こした弾性波動を利用して地下構造を調べる技術で、物理探査の一つです。海上であれば、海上物理探査船と呼ばれる特殊作業船、陸上であればパイプロサイス車と呼ばれる特殊作業車両を用いて実施します。

特長  
その2

# 世界27カ国で、 76のプロジェクトを すすめています。

2010年9月末現在、27カ国で76プロジェクトを推進しています。石油・天然ガスの比率、地域的分散、探鉱・開発・生産などの事業ステージ、石油契約の形態などで、異なるプロジェクトを組み合わせることで適切なリスク管理を図りながら、世界でも有数の大規模な油・ガス田の権益を保有しており、バランスのとれたポートフォリオを有しています。



バランスのとれたポートフォリオによって  
リスク分散を図っています。

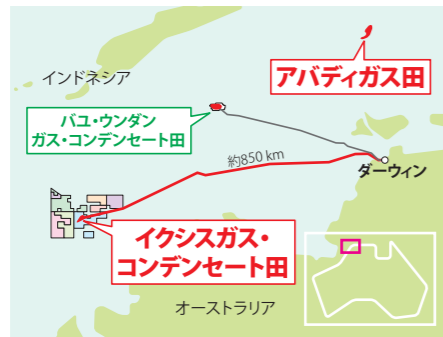
用語解説

**オペレーター**：石油・ガス田の探鉱・開発に関する石油契約において、契約当事者が複数の場合、実際の探鉱作業や操業を実施・管理する当事者をオペレーターと呼びます。これに対し、オペレーター以外の当事者はノンオペレーターと呼ばれます。  
**コンデンセート**：一般に、ガス田から液体分として採取される原油の一種で、地下では気体で存在していますが、地上で採取する際に凝縮する液体（油）をコンデンセートと呼び、原油として、または化学原料として利用されます。コンデンセートを伴うガス田をガス・コンデンセート田と呼びます。

# 特長 その3

## 確かな成長に貢献する、 2つの大型LNGプロジェクトに 挑戦しています。

当社は、世界有数の規模となる、オーストラリアのイクシスとインドネシアのアバディという2つの海外大型LNGプロジェクトを日本企業で初めてオペレーターとして立ち上げようとしています。両プロジェクトの生産量は、現在の日本のLNG輸入量の約2割に相当する見込みです。



海外大型LNGプロジェクトと国内のパイプラインネットワーク、建設中のLNG受入基地とを有機的に結びつけたガスサプライチェーンの構築にも取り組んでいきます。



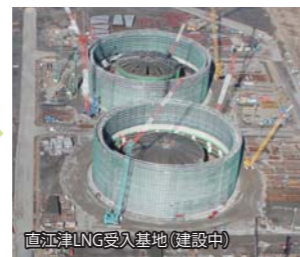
### 開発・生産

- 海外既発見油・ガス田の早期商業化
- 積極的な海外探鉱・開発活動の推進



### 液化

- 大規模LNGプロジェクト(イクシス、アバディ)の着実な推進



### 輸送・気化

- 国内天然ガス事業の拡大につながる新たな原料調達
- 自社LNG受入基地の建設



### ガス供給

- 国産天然ガスと海外LNGの最適活用
- 国内パイプラインネットワークとの有機的結合

ガスサプライチェーンを構築し、  
ガス事業を積極的に展開していきます。



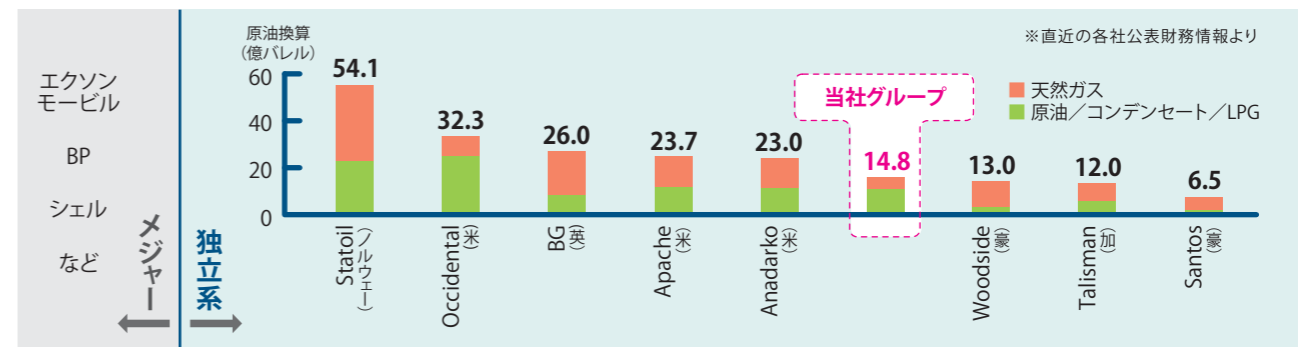
**LNG:** LNGとは液化天然ガスを指します。メタンを主成分とする天然ガスから水分、硫黄化合物、二酸化炭素などの不純物を除去した後、超低温(-162度)に冷却し、液化されたものです。それに伴って体積が600分の1に圧縮され、一度で大量の輸送が可能になります。

# 特長 その4

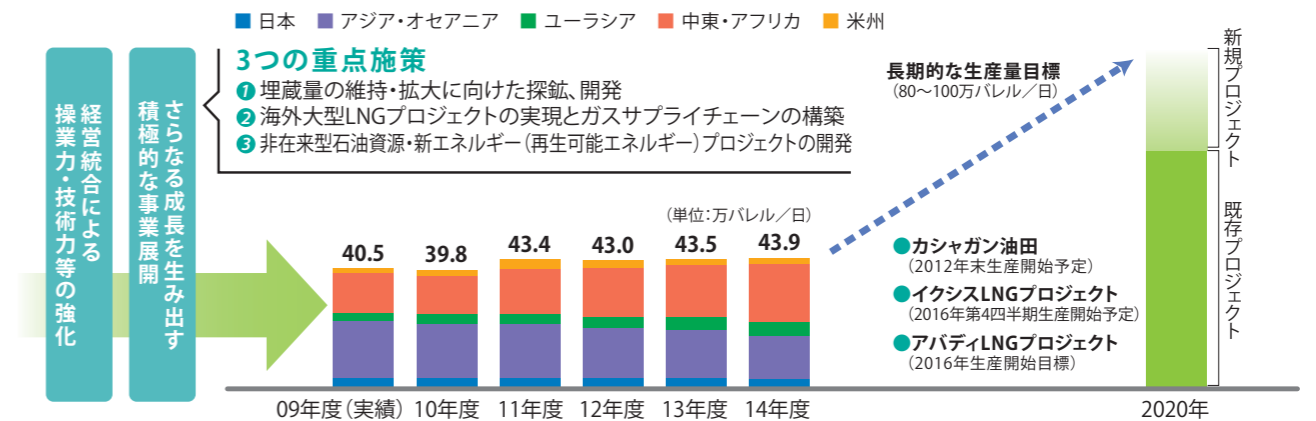
## 日本企業で最大、 国際的な中堅グループの 埋蔵量、生産量です。

現在、石油メジャーに次いで国際的に活躍する独立系石油企業(インディペンデント)の中位に位置する当社の埋蔵量、生産量は、2020年までには、イクシス、アバディなどの商業化により、インディペンデントのトップグループ規模へ拡大します。

### 国際石油企業との確認埋蔵量の比較



### INPEXグループの成長戦略(生産量予測)



※1: 生産量は、各プロジェクトの石油契約に基づく当社取り分に相当する数値を原油換算して表示しております。  
 ※2: 原油価格は77.5ドルを前提に、既存プロジェクトのみで試算しております。

毎日80~100万バレルの国際的な  
準メジャー規模を目指しています。



**メジャー:** 国際的な市場支配力を有する巨大会社のこと、国際石油資本とも呼ばれます。エクソンモービル(米)、BP(英)、シェル(英)、シエロン(米)、トータル(仏)の5社などが有名で、それらに続く中堅石油企業を独立系石油企業(インディペンデント)と呼びます。

**確認埋蔵量:** 地質的・工学的データの分析に基づき、現在の経済条件および操業条件の下で、原則として石油契約が満了するまでの間に合理的確実性をもって回収可能である原油・天然ガスの数量のこと、米国証券取引委員会(SEC)の基準に準拠しています。技術的には、確認埋蔵量に追加して商業的に回収することが可能と推定される数量として、推定埋蔵量、予想埋蔵量といった区分があります。



# 石油・天然ガスの安定的・効率的な供給と、持続的な企業価値の向上を目指して。

当社は、2008年10月に国際石油開発と帝国石油が完全統合して発足した、我が国最大の石油・天然ガス開発企業です。石油・天然ガスの探鉱・開発・生産を積極的に推進し、エネルギーの安定的かつ効率的な供給の実現に貢献するという社会的使命を果たすとともに、埋蔵量と生産量の中長期的な維持・拡大により、企業価値の持続的成長を図ることを基本的な経営方針としています。

## 3つの重点施策を展開していきます。

日本の経済活動や国民生活に不可欠な石油・天然ガスは、国内一次エネルギー需要の約6割を占め、そのほとんどを輸入に依存しています。他方、世界の石油・天然ガス資源の大半は産油国や国営石油会社の管理下にあり、その管理を強化する動きも広がっています。また、中国・インドなどの新興国は国を挙げて世界各地で権益確保に邁進する一方、海外の石油会社も競争力を強化しており、資源獲得競争は厳しさを増しています。

こうした厳しい経営環境の中で、当社は、「バランスの取れたポートフォリオ」、「国際的なプレゼンスの向上」、そして「プロジェクト運営能力の強化」という統合のシナジー効果を原動力として、3つの重点施策を推進していきます。まず、「埋蔵量の維持・拡大に向けた探鉱・開発」です。埋蔵量は当社グループの価値の源泉であり、国際石油市況の変動や資源獲得競争の中においても、戦略的かつ適切な投資判断により継続的、積極的に進めていきます。2つ目は、「海外大型LNGプロジェクトの実現とガスサプライチェーンの

構築」です。当社がオペレーターとして手がけるオーストラリアのイクシスとインドネシアのアバディという2つのLNGプロジェクトは、わが国へのLNG安定供給に資するばかりでなく、中長期的な当社の成長に大きく貢献します。また、これらと国内に保有するガス供給インフラとを有機的に結びつけたガスサプライチェーンの構築にも取り組んでいきます。3つ目は、「非在来型石油資源の開発と研究開発」です。オイルサンドなど非在来型の石油資源の開発や、二酸化炭素の地中貯留、天然ガスの液体燃料化といった研究開発にも取り組んでいきます。こうした施策によって、当社グループの原油・天然ガス生産量を大きく増加させ、長期的にメジャーに次ぐ「準メジャー」レベルの規模とすることを目指しております。

この成長を達成するためには、当社が目下、オペレーターとして進めているイクシス、アバディの2つのLNGプロジェクトや、パートナーとしての参画ながら、2012年末の生産開始を予定しているカザフスタンの大型油田カシャガンの開発プロジェクトの実現が不可欠であり、当面はそれらを目論見どおりに仕上げることに軸足を置き、経営資源を効果的・

効率的に配分しつつ、資金力、技術力などを抜本的に高めていく必要があります。

当社は、このうち資金力の強化を目的として、2010年8月に新株式の発行、売出し等により総額約5,200億円の増資を実施しました。今後はさらに強化された財務基盤に基づき、銀行借入等の資金調達を実施し、今後7年間で総額約4兆円の開発投資等を行ってまいります。

## 社会的責任を果たし、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを密にしていきます。

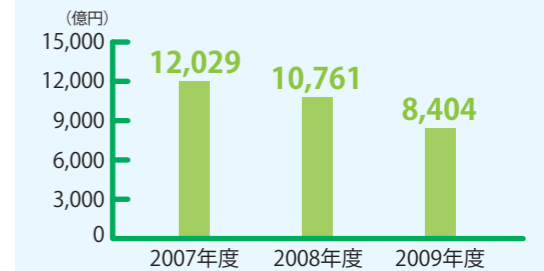
また、当社グループに課せられた社会的使命を果たすため、高い倫理観に基づいた行動、安全と環境保全を最優先した操業、プロジェクトが実施されている地域への貢献を常に念頭に置き、各活動地域における社会の一員として、さまざまなステークホルダーの皆さまと密にコミュニケーションを図りながら社会の発展に貢献してまいります。

株主の皆さまへの利益還元については、当社は、今後もイクシス、アバディの本格投資など多額の探鉱・開発投資を計画していますので、現在は「飛躍のための成長途上」と言える段階であり、当面は多額の資金を必要としています。従って、積極的な投資を通じた企業価値の向上と配当などによる直接還元の調和を、中長期的な視点で図っていく方針です。

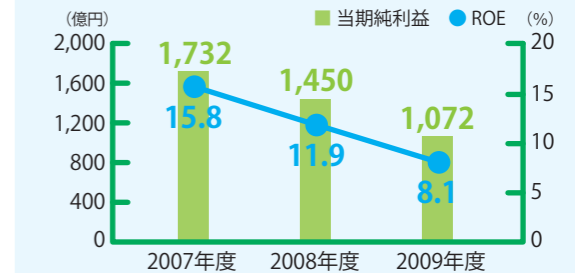
投資家の皆さまにおかれましては、今後とも当社グループへのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 業績の推移

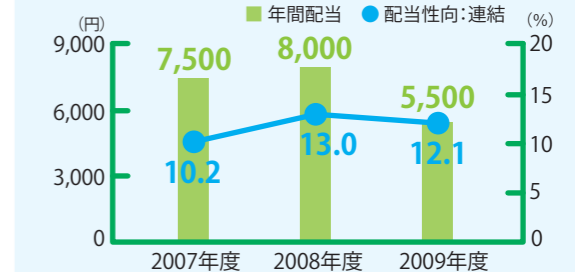
#### 売上高(連結)



#### 当期純利益・ROE(連結)



#### 配当金・配当性向



積極的な投資を通じた持続的な企業価値の向上と、配当などによる株主の皆さまへの直接的な利益還元との調和を、中長期的な視点で図っていきます。



代表取締役会長  
黒田 直樹



代表取締役副会長  
梶岡 雅俊



代表取締役社長  
北村 俊昭

沿革

